



「普天間基地移設問題」

問題提起者：熊本 博之さん（明星大学人文学部人間社会学科教授）

日時：2024年1月13日（土）13:30～16:30 ※土曜日開催です。

参加費：無料

会場：Zoom を使用したオンライン

参加者：9名

問題提起要旨：私は2000年代初頭から、名護市辺野古の集落での聞き取り調査を続けてきました。

なぜ建設に反対する運動をしている方々ではなく、辺野古の住民を調査しているのか、と思う方もいらっしゃるかもしれません。

私が辺野古集落にこだわる理由。それは、辺野古の人たちの普天間基地移設問題に対する応答に、沖縄の基地問題の縮図があると考えているからです。

辺野古は、普天間基地の移設候補地となった当初、明確に受け入れ反対の意思を示していました。

反対派住民による運動組織「命を守る会」も発足しています。

ですが辺野古はいま、条件つきで、普天間代替施設という名の新たな基地の建設を受け入れる方向で動いています。

なぜ辺野古の人たちは、自分たちの生活環境を確実に悪化させる基地の受け入れを容認しているのか。

それは、ただ補償金がほしいからではありません。そもそも実際のところ、補償金はないに等しいのです。

にもかかわらず受け入れようとしている理由を、辺野古の歴史や社会構造にも触れながら、お話ししたいと考えています。

あわせて、2022年9月に行った、沖縄県民を対象とする意識調査の結果に基づき、普天間基地移設問題を中心に



とする在沖米軍基地をめぐる沖縄の世論の実態に言及していきます。

本土に住む私たちが何をなすべきなのか、じっくり議論しましょう。